

デイサービスセンタ 長生東

令和 5 年度 事業報告



1. 事業実績

(1) 令和5年度 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数(人)	318	339	352	333	294	334	326	334	284	303	339	360	3,916
平均利用者数(人)	15.1	15.4	16.0	15.9	12.8	15.9	15.5	15.2	14.2	15.2	16.1	16.4	15.3
稼働率	84%	86%	89%	88%	71%	88%	86%	84%	79%	84%	90%	91%	85%

- 年間平均稼働率は前年度の82%と比較して5%上昇した。前年度はコロナウィルス関連での8日間の休業があり稼働率へ影響していた。今年度も8月に同様の3日間の休業があった。
- 福祉医療機構「2021年度（令和3年度）通所介護経営状況について」によると全国の地域密着型通所介護の稼働率の平均は73.5%であるため平均より上回った稼働率ではあるが、同報告では全国の赤字経営の事業所が44.3%にも上っており、およそ半数近くの事業所が赤字に近い経営状態であることを踏まえると全国平均稼働率が損益分岐と考えられる。
- ウクライナ情勢の影響による水道光熱費や燃料費、食材料費等の物価の上昇、人件費の高騰などにより経費率の上昇が続き、介護報酬においても基本報酬は若干上がったものの入浴加算などの減額があり利用者一人当たりの利益率は低下している状況である。

(2) 登録利用者の男女・介護度の状況（令和6年3月現在）

	申請中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男(人)	0	1	0	4	2	0	1	1	9
女(人)	0	0	4	7	9	7	2	1	30
合計(人)	0	1	4	11	11	7	3	2	39

- 平均介護度は2.23。前年度は2.25であったため微減している。

(3) 登録利用者の世帯の状況（令和6年3月現在）

	独居	老々介護	日中独居	その他	合計
人数(人)	12	5	6	16	39

- 利用者の内30%は単身で生活をしている。
- 独居の方12人のうち、市内に家族等がいる方が6人、県内が4人、県外が2人、家族等がない方が1人となっている。
- 利用者のうち36人は持ち家、3人は賃貸であり、その3人全員が独居である。

(4) 圏域ごとの利用者数と割合（令和6年3月現在）

	ほんのう	ちゅうおう	もばら	みなみ	他市町村	合計
人数(人)	28	6	4	1	0	39
割合	72%	15%	10%	3%	0%	100%

- 当事業所は平成28年4月から地域密着型通所介護となり茂原市の被保険者のみが利用できるサービスとなった。
- 地域密着への移行時（平成28年3月）の保険者ごとの割合は茂原市44%、白子町44%、長生村13%であり、茂原市の被保険者である利用者は半分満たない状況であった。
- その後、新規利用者は茂原市の被保険者のみとなったが、地域密着型サービスの特徴のひとつとして地域との連携『事業者は、事業を運営するに当たっては、地域との結びつきを重視し、市町村、他の地域密着型サービス事業者又は居宅サービス事業者、さらに保健医療サービス・福祉サービスの提供者との連携に努めることとされている』（厚生労働省 平成29年3月 地域密着型サービスの概要より抜粋）とされており、茂原市全域において地域との連携を図ることは困難であると判断し、概ね中学校区と言われる日常生活圏域内のサービス提供を進めている。
- 開所から10年が経過し、地域住民から直接サービス利用の相談を受けることも増え、同時にケアマネジャーや地域包括支援センター等へ上記の運営方針を伝え現在では利用者の72%がほんのう地域包括支援センターの担当地域の住民となっている。

(５) 取引先の居宅介護支援事業所（令和６年３月現在）

事業所名	人数	事業所名	人数
居宅介護支援事業所長生東	7	居宅介護支援事業所ぷらんどーる	1
茂原訪問看護ステーション	6	むうみんケアセンター	1
ボーソーヒルズ居宅支援事業所	5	セントケア茂原	1
ケアプランここね	3	介護老人保健施設つくも苑	1
ケアプランすまいる	2	さくら・居宅介護センター	1
居宅介護支援センター光風荘	2	居宅介護支援事業所かしま	1
けあぷらん はちべえ	1	ヤックスケアセンター茂原	1
居宅介護支援センター共楽園	1	恵ケアセンター茂原	1
あおばケアプランサービス	1	グッドケア居宅介護支援事業所	1
居宅介護支援センター実恵園	1	モルゲンケアプラン	1

- 前年度末の取引先は１８事業所であったが今年度末は２０事業所と増えている。
- 地域住民からのデイサービスの利用相談から居宅介護支援も並行して希望される方が多く併設されている「居宅介護支援事業所長生東」のケースが最も多いが、令和６年３月までで居宅部門は事業休止となった。居宅介護支援と通所を同一法人で関ることができるメリットも多かったが、今後は他法人の事業所との連携さらに深めて利用者支援に当たる。

(６) ヒヤリハット・事故・相談苦情

■ ヒヤリハット

- 早急に対応の検討が必要な案件については当日に、また、毎月の職員会議でヒヤリハット等を検証し、再発防止策を検討している。

【内容】・利用者が一人で外に出ようとしていた

・おやつアイスコーヒーのグラスにひびが入っていた

・家事訓練用の針が床に落ちていた 等

■ 事故

- 保険者への報告が必要な利用者の受診が必要な事故は起こらなかったが外傷や痛みの残らない転倒や送迎中の車両についての事故報告が数件あった。

【内容】・Y 様宅の壁に送迎車両の後方側面をこすってしまった。

・トイレ誘導中に便座へ座る際に介助していた職員の靴が滑りゆっくり右ひざを床についてしまった。

・脱衣場に歩行介助で移動し椅子に座る際に利用者の腰が落ちてきてゆっくり床に尻もちをついた。

■ 相談・苦情

- 本人家族からの相談、苦情については適宜生活相談員が対応し、利用中の対応に配慮や変更が伴う場合は多職種で話し合い検討している。必要に応じてケアマネジャーへの報告や相談も行っている。

【内容】・（本人より）風呂のお湯がぬるかった。

・（家族より）朝迎えに来た職員がドアを何度もたたいてうるさい。

（7）事業計画における事業目標について

■ 年間の平均稼働率 80 %を保つ

・前述のとおり年間の平均稼働率は 85 %であったため目標は達成された。

■ サービス利用に関わらない地域住民からの相談を受ける

・相談からサービス利用につながる事が殆どであり利用に関わらない相談はなかった。

（8）職員配置について

■ 管理者・生活相談員 常勤・兼務 1 名 【社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士】

■ 看護師・機能訓練指導員 非常勤・兼務 2 名 【正看護師（2 名）介護支援専門員（1 名）】

■ 介護員・生活相談員 常勤・兼務 1 名 【介護福祉士・介護支援専門員】

■ 介護員 常勤・専任 3 名 【介護福祉士（1 名）ホームヘルパー 2 級（1 名）無資格（1 名）】

非常勤・専任 2 名 【ホームヘルパー 2 級（1 名）無資格（1 名）】

※無資格の 2 名は認知症介護基礎研修終了

経管栄養が必要な利用者の受け入れ

- ケアマネジャーより経管栄養で食事をとっている利用者の受け入れについて相談があった。

当施設では看護師を2名雇用しており、毎日配置している所ではあるが体調不良等によりどちらの看護師も出勤できないリスクを考えると、経管栄養が必要な利用者の受け入れはしていないところであった。

今回の相談についても当初は受け入れできない旨ケアマネジャーへ伝えたが、再度相談があり、他施設も当たったが、受け入れ可能な施設がなかったとのことだった。

主介護者が高齢の母でありレスパイトが必要。主介護者も難病をかかえており、受診が必要だが受診に行っている間の受け入れ先がない。住まいは施設からほど近い所である。40代の2号保険者であり外出の機会が全くない。といった状況から受け入れを検討した。

こちらからはもし看護師が不在になってしまうような日があった場合は利用を見合わせてもらうことを確認して受け入れることとした。

利用開始から半年近くなるが今のところ問題となる事はなく通所介護として支援が続いている。

今後の経管栄養が必要な利用者の受け入れについては状況などを勘案して検討していくが、今回の受け入れにより、経管栄養に限った事ではなく、施設として受け入れられない理由を明確にし、その理由を解決できる方法を利用者、家族、ケアマネジャーと検討することで様々な理由で要介護状態となり地域で暮らしている方々がその生活を継続できる手助けになるのではないかと感じた。

避難訓練

- 令和5年9月に火災想定、令和6年3月に地震及び大津波警報発令想定での避難訓練を実施した。
火事想定では施設外への避難、地震想定では施設2階への避難の訓練を行った。



職員研修

- 毎月施設内での職員研修を実施している。また、適宜外部研修への参加も行っている。

研修名	参加者	開催日時
虐待防止及び身体拘束排除について	佐久間・並木・上代・佐々木・岩瀬・細谷	4月18日
事業報告・事業計画について	佐久間・並木・上代・佐々木・岩瀬・細谷	5月13日
挨拶・マナーについて	上野	6月28日
茂原市フレイルサポーター研修会(主催:茂原市役所)	並木	5月25日・6月15日・7月14日
介護保険制度と通所介護の位置づけ	佐久間・並木・上代・佐々木・上野	6月30日
自立支援について	佐久間・並木・上代・佐々木・上野	7月20日
ハラスメント防止について	佐久間・並木・上代・佐々木・上野	9月27日
倫理・法令遵守・個人情報保護について	佐久間・並木・上代・上野・田中	10月17日
事故防止・緊急時対応について	佐久間・並木・上代・田中	11月28日
介護技術(トランスファー)について	林・並木・上代	12月20日
感染症(ノロウィルス・インフルエンザ)について	林・並木・佐久間・上代	12月21日
令和5年度介護BCP策定支援セミナー(主催:厚生労働省)	林	1月17・19日
認知症及び認知症ケアについて	林・並木・佐久間・上代・森川	2月28日
BCPについて	林・並木・佐久間・上代・森川・林	3月28日

非常災害時の対応

■ コロナウィルスについて

- 令和 5 年 5 月にコロナウィルスが 5 類感染症へ移行されたが、今年度も大きな波を描きながら流行が繰り返された。当施設でも利用者に陽性反応が出て 8 月 17～19 日を休業した。
- その後は職員家族や利用者家族に陽性者が出たものの出勤等を見合わせるなどで対応し休業せず蔓延も防いだ。
- 現在も職員や利用者の検温、デイルーム内の SPO₂濃度の測定や 30 分ごとの換気、消毒等の対応を継続している。

■ 大雨に伴う冠水

- 令和 5 年 9 月 8 日に台風 13 号接近に伴う大雨により茂原市内の一部に冠水被害が出た。
- 当日デイサービスは通常通り営業をしたが、11 時前に法人本部から一宮川の水位がかなり上昇しているとの情報が入り、自宅や帰路が冠水の恐れのある利用者及び職員を帰宅させ、そのほかの利用者に対しては帰路に問題のない職員が対応して通常通りのサービス提供を行った。
- 従前では一律的にサービスの早期終了や中止を判断していたが事業継続の観点から今回は対応が必要な利用者・職員とそうでない利用者・職員を分けて考えて対応した。

総括

- 今年度は何年も続いていたコロナウィルスの閉塞感から徐々に解放される雰囲気もありながら、イスラエル・パレスチナからの中東不安、長引くウクライナ侵攻、それに伴う国内での物価高騰など漠然とした不安が続く年だった。
- 前述のとおり茂原市内でも 9 月に大雨による冠水被害がメディアでも大きく報じられた。利用者の自宅こそ浸水することはなかったが、大雨は年に 1 回と決まっているわけでもなくまたいつ同様の状況にならないかと心配しながら秋雨シーズンを過ごした。
- 当施設においては稼働率が毎月概ね 8 割を超えることができたが、年度途中で職員の退職や育児休業などが重なり、現場の疲弊が続いた。
- 年度終盤には 2 名の新規雇用ができ、育児休業から復帰する職員もあるため、来年度以降は充足される。充足された中で安心して育児休暇や有給休暇がとれ、継続して働きやすい職場を目指したい。
- 来年度には介護報酬改定もあり処遇改善加算の増額もきまっており、より良い処遇での雇用を進めていきたい。
- 利用者に関しては稼働率の上昇を目指すとともに地域包括ケアシステムの一翼を担えるよう、地域単位でのサービス提供をすすめ、感染症とよく相談をしながら地域とのかかわりを深めていきたい。